

36年ぶりに前高サッカー部が頂点へ



**パスでつなぐ絆
目指すは全国制覇!!**

沖縄県高等学校総合体育大会の決勝戦が6月7日(土)に読谷村陸上競技場で行われ、前原高校が、36年ぶりに同大会の頂点に輝きました。

那覇高校を相手に序盤からパスサッカーで試合をコントロールする前原高は、12分にFW山田大貴選手が先制点を奪うと、立て続けに主将の田里駿選手が2点の追加点をあげ、前半を3対0で折り返しました。

ハーフタイム中、和仁屋監督から「自分らのサッカーができていて、持てる力を全てだしきってこい」と激励を受け挑んだ後半戦。那覇高の必死の猛反撃に対し、準決勝まで無失点に抑えた前原校の堅守が破られるも、全員一丸となった守備で逆転を許さず、3対2で勝利し、優勝の栄冠に輝きました。

同高は8月2日から山梨県で開催される「平成26年度全国高校総体」に、沖縄県代表として出場します。

【コメント】

決勝戦の前半は自分らのペースで、理想とする試合展開ができたが、後半の我慢する場面で足がとまってしまった。8月に行われる全国大会までに体力をより一層強化し、得意とするパスサッカーの質を高め、80分間試合を支配できるように頑張りたい。



【主将：田里駿選手】



【福里 若菜さん 瑞慶覧 季夏さん】
選手たちには、普段の練習を信じて、全国で思いっきりプレーしてほしいと語る3年生マネージャーの2人



【監督：和仁屋 恒輝】

運天前監督が育てたチームを4月より引き継ぎ、全国へと導いた和仁屋監督。基礎的な練習を怠らず、また同じ内容でもより質が高くなる練習方法を常に模索している。

「家族や友人、周りの人々に支えられて、サッカーができていることを実感しなさい」と常日頃から選手たちに語りかけ、技術面のみならず、精神面や礼節も重んじるその指導方針は、生徒のみならず関係者や生徒の父母からも信頼は厚い。

「日々の練習を思いだし、前原高校の持ち味がだせば、必ず上のステージにいけます。全国でプレーする選手たちを、ぜひとも応援よろしくお願いします」と全国大会への意気込みを熱い眼差しで語りました。